

1

特集

＼気づきを高めて急変を防ぐ！／

フィジカルアセスメントの極意

—絶対おさえておきたいポイントはココ！—

フィジカルアセスメントに必要なスキル



村田洋章 (東京慈恵会医科大学 医学部 看護学科 成人看護学 講師)

point

- 看護師のフィジカルアセスメント能力の向上は、社会から急速に求められている！
- 言葉の意味を知っておこう：
ヘルスアセスメント＞フィジカルアセスメント＞フィジカルイグザミネーション！
- 急性期領域のフィジカルアセスメントは、「head to toe」からではなく、焦点化したうえで「生きている証（バイタルサインズなど）」の機能評価から始める！

はじめに

本章では、フィジカルアセスメントの重要性を再認識していただいた後に、「ヘルスアセスメント」「フィジカルアセスメント」「フィジカルイグザミネーション」の違いについて概説してい

きます。その後、フィジカルアセスメントの基本的な流れや、必要とされる知識の概略を述べていきます。

身体理解と判断力の重要性

看護師に期待されている役割

保健師助産師看護師法で規定されている、「療養上の世話」ならびに「診療の補助」という看護師の機能を、効果的・効率的にチーム医療のなかで看護師が発揮することが社会から急速に求められています。

このことは、近年の専門看護師教育課程の推移をみても明らかです。そもそも、専門看護師とは日本看護協会専門看護師認定審査に合格し、複雑で解決困難な看護問題を持つ個人、家族および集団に対して、水準の高い看護ケアを効率よく提供するための、特定の専門看護分野の知識および技術を深めた者をいいます。この専門看護師の教育を受けるためには、日本看護系大学協議会が認定した指定の大学院修士課程・博士前期課程を修了することが前提となりますが、修了するためには授業や実習をクリアする必要があります。つまり、単位（テストや審査などを受け基準をクリアした際に単位取得となります）を取得し無事卒業しなければなりません。

上記の過程を卒業するためには、今までは26単位（通常は90分/コマ（15時間）×15コマの授業を学修した者に対して2単位）でよかったのですが、2020年度から38単位取得しなければならなくなりました。卒業するために必要とされる知識・技術・能力が、実に12単位分も追加されたわけです。

その追加された内容として、実習時間の増加もさることながら、「フィジカルアセスメント：2単位」「病態生理学：2単位」「臨床薬理学：2単位」がそれぞれ必須科目として新たに加わっています。

以上のことは、何も特別な看護師のみに必要なわけではなく、「看護師は今まで以上にしっかりしたフィジカルアセスメント能力を含めた知識や技術を併せ持つことが必要である」ということを暗に意味しており、より高い能力を併せ持った看護師が社会から要求されていることとなります。

フィジカルアセスメントのゴールを明確に—診断する？状態判断する？—

私たちがフィジカルアセスメントを行う目的は、「対象患者の状態を判断あるいは把握するため」です。つまり、「患者の状態から緊急性の有無を明確に判断/把握し、必要とされる看護ケアへつなげること」がフィジカルアセスメントの目的¹⁾といえます。私たち看護師は、診断あるいは看護診断名をつけるためのみにフィジカルアセスメントを行うわけではないということ、あくまで手段であり、その目的は状態を把握することにあるということを理解することが大切です。そうすれば、おのずとその後の行動（看護ケア）へとつながるのではないのでしょうか。